

平成 21 年 度 第 15 回 定 例 会

八王子市教育委員会会議録

日 時 平成 2 1 年 1 2 月 1 6 日 (水) 午後 2 時
場 所 八王子市役所 議会棟 5 階 第 3 ・ 第 4 委員会室

第 1 5 回定例会議事日程

1 日 時 平成 2 1 年 1 2 月 1 6 日 (水) 午後 2 時

2 場 所 八王子市役所 議会棟 5 階 第 3 ・ 第 4 委員会室

3 会議に付すべき事件

第 1 第 4 1 号議案 特別支援学級の設置について

第 2 第 4 2 号議案 八王子市指定有形文化財の指定について

4 報告事項

・インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について (学事課)

・第 6 0 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の申し込み状況について

(スポーツ振興課)

八王子市教育委員会

出席委員 (5 名)

委 員 長 (1 番) 小田原 榮

委 員 (2 番) 和 田 孝

委 員 (3 番) 川 上 克 美

委 員 (4 番) 水 崎 知 代

委 員 (5 番) 石 川 和 昭

教育委員会事務局

教 育 長 (再 掲) 石 川 和 昭

学 校 教 育 部 長 石 垣 繁 雄

学 校 教 育 部 参 事
(教 職 員 人 事 ・ 指 導 担 当) 由 井 良 昌
兼 指 導 室 長 事 務 取 扱

教 育 総 務 課 長 穂 坂 敏 明

学校教育部主幹 (企画調整担当)	穴井 由美子
学 事 課 長	野 村 みゆき
学校教育部主幹 (中学校給食担当)	小 松 正 照
学校教育部主幹 (学区等調整担当兼 特別支援教育・指導事務担当)	海 野 千 細
指導室統括指導主事 (企画調整担当)	宇都宮 聡
指導室統括指導主事 (教育センター担当)	内 野 雄 史
指導室統括指導主事 (教育施策担当)	宮 崎 倉太郎
指導室前任指導主事	所 夏 目
生涯学習スポーツ部長	榎 本 茂 保
生涯学習スポーツ部参事 (図書館担当)	坂 倉 仁
生涯学習総務課長	桑 原 次 夫
スポーツ振興課長	遠 藤 辰 雄
生涯学習スポーツ部主幹 (スポーツ施設担当)	若 林 育 男
学 習 支 援 課 長	設 楽 いづみ
文 化 財 課 長	渡 辺 徳 康
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	遠 藤 幸 保
生涯学習スポーツ部主幹 (こども科学館担当)	齋 藤 和 仁
学 事 課 主 査	山 本 直 樹
文 化 財 課 主 任	土 井 義 夫

事務局職員出席者

教育総務課主査	後 藤 浩 之
教育総務課副主査	小 林 なつ子
教育総務課主任	川 村 直

【午後2時00分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成21年度第15回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は 4番 水崎知代委員 を指名いたします。よろしく願います。

それでは、日程に従いまして進行いたします。

小田原委員長 日程の第1、第41号議案でございます。特別支援学級の設置についてを議題に供します。

本案について、指導室から説明願います。

海野学校教育部主幹 それでは、第41号議案 特別支援学級の設置について、御説明いたします。

設置する学校は特別支援学級の知的障害学級（固定）です。八王子市立由木中学校内に1学級を設置いたします。

開設日は平成22年の4月1日を考えております。

開設の趣旨でございますけれども、関連資料の特別支援学級在籍児童生徒数設置学校数学級数の推移をごらんください。

特別支援学級中学校の知的障害学級のほうの在籍者数は、ここ数年増加の一途をたどり、平成11年当時に比べますと約2.6倍になるなど、特別支援学級へのニーズが高まっております。このことから特別支援教育推進計画に基づきまして、特別支援学級の新設を進めてまいります。

なお、特別支援学級中学校の情緒障害等通級指導学級に通級する生徒数も増加の傾向、約6倍強といったところを示しております。

新設する学級の内容ですけれども、由木中学校の知的障害固定学級を1学級新設をいたします。

理由につきましては、資料として地図をお手元に配付させていただきました。そのピンクの丸のところ为由木中学校でございます。現在、多摩ニュータウン地域の固定学級は松が谷中学校と宮上中学校の2校でございます。松が谷中学校は21年度には2学級に増設

いたしました。宮上中学校も3学級の定員をほぼ満たしている状態です。

また、多摩ニュータウン地域から打越中学校、21年度にこの打越中学校は4学級に学級増になったところでございます。通学する生徒もおりまして、小学校の固定学級卒業見込み児童の就学を考えますと同地域に固定学級を設置して、中学校固定学級の生徒数のバランスを図る必要があると考えております。

設置の時期は22年4月1日。予算につきましては715万円。平成22年度の夏季休業中に施設の工事をする予定でございます。

教員につきましては、1学級分2名を予定しております。

説明は以上でございます。

小田原委員長　ただいま、指導室の説明は終わりました。本案について、何かご質問ございませんか。

水崎委員　質問ではなくて、お願いになるのですけれども、よろしいでしょうか。

私は設置には賛成ですので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

あと、そのほかにお願ひ2点なのですけれども、言うまでもないとは思いますが、八王子は市域が広いので、子どもたちが通いやすいように配置を考えていただいて、今後も固定学級に限らず通級も含めて推進していただきたいなと思います。もちろん予算のこともありますので、限界というものはあるかもしれませんが、必要とされているお子さんもかなりいらっしゃると思いますので、ぜひ、適切な配置というのですか、それをお願ひしたいというのが一つと。

もう一つ、設置した後のことなのですけれども、やはり学級の中での教育とか指導とか支援ですとか、その内容の充実がやはり重要なと思いますので、一人一人に見合った適切な指導がしてやれるように継続して学級のほうを見ていただいて、ぜひ充実した特別支援学級にしていただきたいなと思います。よろしくお願ひします。

小田原委員長　これについては、長期的な計画といたしますか、見通しはあるわけでしょう。

海野学校教育部主幹　特別支援教育の推進計画の中で、おおむね年間3、4校程度開設をしていくというふうな形でありまして。ただ、具体的な学校につきましては、学校施設との関係の中で協議をしながら進めておりまして、今後もいろいろ学校等あるいは児童数、生徒数の状況によって、よりニーズの高いところに当面新設をしていく必要があるかと考えているところです。

小田原委員長　これから適正配置等も考えなければいけませんので、どういうふうになる

かというのは流動的だと思いますけれども、将来的にはすべての学校に特別支援学級が配置される方向性はあるわけでしょう。

海野学校教育部主幹 はい。そのすべての学校に置くことで、どういう状況が起こるかについては、もう少し検討が必要かとは思いますが、方向性としては少なくとも、まだ30%弱ぐらいの状況ですので、今後ふやしていくという方向であります。

というのは、全校に設置した場合に、1校当たりの児童生徒数がかかなり小さくなる可能性もありまして、そうすると教育指導上、子どもの数が少ないために十分な効果が上げられないといったことも多少考えられますので、その辺は状況を見ながら検討してまいりたいと思っております。

小田原委員長 前半のお願いについてはそういう方向だということで、もともとそういう方向性で八王子は出発しているということですね。

後半のほうについては、それもセンターを中心に研究されていくということで、内容についてもその方向性は変わっていないということですね。

海野学校教育部主幹 そうです。人的支援という意味では、今も指導補助員、それから学校によってはボランティアの方をかなり活用しているところもあったり、それから今、教員が団塊の世代がどんどん退職していく中で、若い教員がふえているということで、研修等も非常に必要な状況があるというふうに認識しております。これについては、指導室、指導主事等も含めて研修計画を立てて、より充実した指導ができるように心掛けていきたいと考えております。

小田原委員長 ということですが、そのほかいかがでしょうか。特にございませんか。

はい、どうぞ。

和田委員 ぜひ、こういった特別支援学級の計画を進めていただきたいと思うのですが。

この児童数・生徒数の増加というのは、全体的な傾向はどここの区市や都道府県についても同じ傾向にあるのだらうと思うのですけれども。特に、例えば就学相談だとか、その委員会なんかで困難を生じているとか、あるいはなかなか本来であれば特別支援学級に入のお子さんが通常学級にいるというような、そういうような問題点というのは指摘されたりとか、保護者の方あるいは学校のほうから意見が出ているようなことありませんか。そういうようなことがあると、またここに出てくる数字が、今後、適正な就学相談を行った場合には上がってくる可能性もあるものですから、そんなような問題というのは今のところどうでしょうか。

海野学校教育部主幹　それにつきましては、御指摘のように通常学級の中で特別支援学級が適切ではないかと考えられる児童生徒について、通常学級の中で指導に非常に苦慮しているというふうな情報もあります。

ただ、状況で言いますと、そのお子さんたちがかなり通級指導学級を希望されるように年々なってきたように感じています。その関係で通級指導学級のほうもかなりふやしていく必要があるかなと。やはり特別支援教育が実際に実施されるようになってから、保護者の皆さんの考え方というのが、より、その子に必要な支援を受けていきたいということで、そういう特別支援学級を申し込むという方がふえているということを感じているところです。

もちろんその一方で、通常学級の中でうちではやりたいのだという親御さんも当然おられることはおられるのですが、その比率でいうと、特別支援学級を利用したいという保護者の方がふえているという、そんな感じがいたします。

小田原委員長　いかがですか。

和田委員　学校を回ってみると、やはりなかなか相談に乗っていただけない保護者の方もいて、学校が困難を生じているような、そういう状況も聞いていますので。今、お話があったように、この特別支援教育をかなりはっきり周知していることによって、障害の種類に応じた指導が受けられるのだという、そういう保護者の意識が高まってきていることもありますので、ぜひ、そういう意味で啓発もしていただきながら。学級数をふやすことだけが目的ではありませんけれども、そういう子どもたちのためになる学校の選択ができるようにしていただければというふうに思っております。よろしくをお願いします。

海野学校教育部主幹　それに関連しまして、今、通常の学級での指導にかなり困難さがあるといった場合に、特別支援センターが学校のほうへ巡回に回っているのですけれども。その中で通級が必要なんじゃないかというところに保護者、担任、それから特別支援センターで話し合いが進んで、就学相談検討委員会につながっていくというケースも徐々に出てきております。そういう意味では、大分特別支援教育のシステム全体が、そういうことも含めて、保護者の方ならびに学校のほうにも理解が深まってきているかなというふうに感じております。

以上でございます。

小田原委員長　この件に関してなのだけれど、きちんと研究したわけではないので、何とも言えない部分はありますけれども、通常学級に在籍することによって、みんなが、障が

いを持つ子に対する意識が変わってきたとかいう、そういう報告も伺ったりなんかしている一方で、大変だという話と、それから、先ほどのお話のように、こういう特別支援学級ができることによって、そちらのほうへきちんとした対応を受けさせる保護者もふえているという報告もいろいろあるわけなのですけれども。今、和田委員が話されている、何が子どもたちのためになるかということが大きな支援になるだろうというふうに思いますので、その点で私たちも対応していかなければいけないだろうということだろうと思います。

石垣学校教育部長　　今、いろいろな御意見いただいて、そういうような方向でちゃんと対応していきたいなと思っていますけれども。

もう一つ、こども家庭部との関連があるのですけれども。保・幼の部分から小学校へ上がる部分、それから小学校から中学校へ上がる部分での、今、シートをそれぞれのところで作っているのですけれども。そのやり取りをどうやっていくかという部分がもう一つ大きな課題としてあるのですね。その情報をどう伝えていくか、これは個人情報の問題があるので非常に難しいのですけれども、そこら辺を含めて、今、海野主幹のほうでは対応を図っているということでやっております。

海野主幹のほうで言いたいことがあれば、ぜひ。

海野学校教育部主幹　　今、保・幼・小の子育て連絡協議会というところで就学支援シートというのを作りまして、就学前の年長さんのところから小学校へ入るところに、その就学支援シートを使って幼稚園、保育園で実施されてきた配慮とか支援の仕方を小学校のほうの支援する際の参考にしてほしいというふうな形でつながっていくというのが一つあります。

それから、今、小学校のほうでは個別指導計画というのを各学校の中で作成しているわけですが、その個別指導計画を中学校のほうに移るときに引き継ぐ形で、より具体的な支援がつながっていくようにというふうな配慮で進めているところです。

個別の指導計画のほうも保護者と担任の先生が一緒につくるというふうな考え方でいますので、今後は、より個人情報の部分というのが御了解を得た形で中学校に届けられるのではないかと考えているのですけれども。現在のところは今、特別支援学級のお子さん方については100%なのです。ただ、通常の学級の中で通級に行っているお子さんとか、通級に行っていないお子さんの場合には、まだ十分その個別指導計画というのが中学校に作成されて届いていない部分もございまして、そこら辺が今後の課題かというふうに考えているところです。

以上です。

小田原委員長 はい。その特別支援の子どもたちに個別シートがつけられていかなきゃいけないというところに問題があるのだろうね。要は全員にその個別シートがなければいけないはずだと思うのですけれどね。そこら辺、また広がっちゃうといけませんが、検討する話だろうとは思いますが。

そのほかいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 それでは、特にないようでございますので、お諮りいたします。

ただいま議題となっております第41号議案につきましては、御提案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 異議ないものと認めます。

よって、第41号議案については、そのように決定することにいたしました。

小田原委員長 続いて、日程第2、第42号議案 八王子市指定有形文化財の指定についてを議題に供します。本案について文化財課から説明願います。

渡辺文化財課長 それでは、42号議案 八王子市指定有形文化財の指定につきまして、御説明申し上げます。

説明は文化財課の学芸員土井より行います。

土井文化財課主任 それでは、第42号議案について御説明いたします。

第42号議案 八王子市指定有形文化財の指定について。八王子市文化財保護条例第4条第1項の規定に基づき、下記を八王子市指定有形文化財として指定する。平成21年12月16日。八王子市教育委員会。

2件あります。1件ずつ御説明します。

名称（員数）、千人同心組頭三木家の肖像画（5点）。名称（員数）天然理心流師範増田蔵六肖像画（1点）。

本件の指定につきましては、本年2月25日付で八王子市文化財保護審議会の諮問を行い、意見を求めたところ、10月29日付で指定することが望ましいとの答申を受けましたので、本日議案として提案させていただきました。

添付の資料をごらんいただきたいと思います。

市指定有形文化財に指定するもの(1)名称、千人同心組頭三木家の肖像画。種別、有形文化財(歴史資料)。員数、5点。年代、江戸時代後期(文化～安政期)。指定理由として、この肖像画は千人同心組頭を代々努めてきた三木家に伝えられたもので、九代幸光、妻津弥、十代茂堯、妻屋與、十一代栄攄の三代5名のものである。5名もの肖像画が残されていることは他に例がなく、夫人像が2点も含まれていることは珍しい。幕末期の千人同心組頭クラスの生活の様子を知る上で貴重な歴史資料である。

指定基準ですが、これも後ろのほうに指定基準を添付しておりますが。指定基準のうち、第一、八王子市指定有形文化財、六、歴史資料、(一)政治、経済、社会、文化等歴史上の各分野における重要な事象に関する遺品のうち、地域的又は学術的価値の高いものということでございます。

(2)名称、天然理心流師範増田蔵六肖像画。種別、有形文化財(歴史資料)。員数、1点。年代、慶応2年。指定の理由として、増田蔵六は戸吹村の千人同心坂本家に生まれ、千人町の組頭増田家の養子となった。天然理心流二代目近藤三助に入門し、三助の亡き後、初代近藤内蔵之助の高弟小幡万兵衛から三術の指南免許を受け、多くの門弟を指南した。天然理心流の実質的な継承者である。この肖像画は平井村の絵師森田五水が描いたもので、八王子の剣術に関する歴史資料として貴重である。

指定基準は、第一、八王子市指定有形文化財、六、歴史資料、(一)政治、経済、社会、文化等歴史上の各分野における重要な事象に関する遺品のうち、地域的又は学術的価値の高いものということでございます。

以上、指定に関しまして御審議いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

小田原委員長　　ただいま文化財課の説明は終わりました。

本案について、御質疑、御意見ございましたら、どうぞ。何かございませんか。

土井さんはその千人同心についてお詳しいと伺っているのですが、今、御説明のあった婦人画が2点もと強調されたわけですが、2点もあるということはやはり珍しいことなのですか。

土井文化財課主任　　余り夫人の肖像画というのは残っておりません。つまり江戸時代の武士階級の中で、やはり当主の画像というのが中心に残されております。あるいは夫妻で長生きをしたということで寿像といい、寿の像という像を残される例もありますが、夫人が単独でこういうふうな肖像画になるというのは本当に珍しいと思っております。今後また出てくる可能性もありますけれども、今のところ2例も残されているのは初めてといたします。

か、唯一だと思えます。

小田原委員長 唯一と。なおかつ、組頭クラスの生活の様子を知る上では貴重だという話もあったのですが。この絵で例えばこの暮らしぶりはどういうところがわかるのですか。

土井文化財課主任 当主の男性の方は大体こういう上下を着られておまして、刀を脇にして絵を描くことが多いのですが、御夫人の場合にはほとんどこういう例がないものから、これは老齡の御夫人と若い御夫人とお二方なのですが、お二人ともたばこをお吸いになっているとか、それから着るものも高齡の方のうち掛けと若い人のうち掛けがまたちよっと違う、あるいは髪のかき方が違うとか、こういうのは実際にまだ写真のないころです。八王子千人同心組頭の御夫人たちのその生活の様子が、これである程度わかってくるかなというところだと思います。

小田原委員長 ということですが。これ煙管が二人ともあるというのがなかなか。この時代は普通だったのだと。あるいはこういう組頭でなきゃ奥さんはたばこなんか吸えなかったのか、その辺はわかりませんが。今のお話のような特徴があって文化財に指定する価値が十分あるということのようですが。

特にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 お諮りいたします。

ただいま議題となっております第42号議案につきましては、御提案のとおり文化財に指定するという御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 御異議ないものと認めます。

よって、第42号議案については、そのように決定することにいたしました。

小田原委員長 議案は以上で、続いて報告事項になります。

学事課から順次御報告願います。

野村学事課長 新型のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について御報告します。

詳細の御報告は山本主査のほうからいたします。

山本学事課主査 それでは、インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況ということで、御報告をさせていただきます。お手元の資料をごらんください。

インフルエンザ様疾患による臨時休業状況ということで、1枚目が昨日12月15日現在の臨時休業の発生状況ということになります。

昨日は小学校が4校4学級、中学校が1校1学級が学級閉鎖を行っております。学年閉鎖、学校閉鎖というのはありません。

累計のほうになりますと、下段の一番右側です。合計欄のほうをごらんください。小学校では67校826学級、中学校では36校400学級が学級閉鎖、学年閉鎖また学校閉鎖をしております。

2枚目、3枚目になりまして、これちょっとホッチキスどめになってしまったのですけれども、グラフになります。

こちらは2学期の臨時休業の状況を小学校、中学校別にグラフ化したものになります。学校数とクラス数と欠席者数のグラフになります。

まず、小学校のほうに関しましては、10月30日がピークになっております。3枚目の中学校に関しましては、ちょっとめくっていただくのですが、10月22日がピークということになって、そこから減少ということになっております。中学校のほうが先にピークを迎えて、約1週間後、小学校のほうでピークを迎えたという状況です。その後、中学校は激減しているのですが、小学校のほうも徐々に減っているという状態です。最初に八王子市も高校生が出ましたので、大学生、高校生から始まりまして中学生、そして小学生というような流れになって流行が起こっているという状況があると言えます。

現在、小学校、中学校ともかなり落ちついてきておりまして大分少なくなってきました。ただ、やはり東京都のほうはまだ警戒レベルということで、まだ定点の観測では患者数はその基準までであるということで、まだ引き続き東京都は警戒レベルということで、健康観察、また手洗い、うがいの予防は徹底をしていくという方向であります。

報告は以上です。

小田原委員長 学事課からの報告は終わりました。

本件について、御質疑、御意見ございませんか。はい、どうぞ。

川上委員 前にも一度お伺いをしたかと思うのですが、インフルエンザ様疾患というのとインフルエンザの疾患の罹患率というの、罹患者の数字という正確なところというのは、学校側は把握しないのでしょうか。

山本学事課主査 インフルエンザに関しましては、確定した診断を受けなければ出ないということもありまして、検査を必ず受けていないという状態もあります。検査キットが不

足しているという状況もありますので、医療機関でも確実にインフルエンザという判定をしていない状況もありますので、医師の判定の中で、診断の中でインフルエンザというふうになっておりますので。確実にインフルエンザにかかった人、インフルエンザのような症状の人というのは、確実な数で把握はまだ今のところしていません。

川上委員 できない。

山本学事課主査 できません。

小田原委員長 インフルエンザ様ということになっているのは、

石川教育長 そういうふうな似た症状の出ているのも含めて合計ね。

山本学事課主査 高熱の症状、せきや鼻水などの症状で、いわゆるインフルエンザ的な症状の人を含めた形での欠席者ということで表示をしております。

小田原委員長 ということです。はい、どうぞ。

水崎委員 重症化した子どもたちはいなかったということで認識してよろしいのでしょうか。みんな順調に治ったと判断していいですか。

山本学事課主査 そうです。入院患者ということでも10名ほどの報告はあったのですが、いずれもすべて皆さん退院をしております、重篤化することはないということで伺っております。

小田原委員長 そのほかいかがですか。

このインフルエンザ様疾患は、再罹患というのはあるのですか。

山本学事課主査 再罹患はあります。

小田原委員長 そうすると、この収まってきているというふうに言うけれども、また多くなるということはある得る。

山本学事課主査 ただ、基本的には一度かかるとその年はかかるとはならないというふうに言われておりますので。同じ人は二度はかからないというふうに言われています。ただ、A型で感染してもまた季節型という可能性もあります。その場合はうつる可能性があるのですが、新型に関しては一度罹患すればうつらないというふうに言われております。

野村学事課長 インフルエンザって季節型もA型もB型もあるので、今回多分ここで多いのは恐らく新型がほとんどだろうと言われております。新型もA型の分かれではありますが、季節型のA型とはまた違いますので、同じ子どもが新型をやっても季節型のAの可能性はありますし、当然B型にかかることはあるかとは思いますが。

小田原委員長 そうですか。これはその日にちごとのグラフ、統計をいただいているわけ

なのだけれども。これを全部足すとどのくらいになって、かかっていない子どもがどのくらいいて、だから心配だというようなことというのが言えそうだ、言えないかどっちかになるかと思うのだけれど、どうなのですか。

野村学事課長 数字の上では実は把握はしていないのですけれども、先生のお話によるともうほとんどの子どもがやはりかかるねというふうなお話はされていました。

小田原委員長 それとあとどのくらいかかっていないというのは出てくるわけでしょう。

野村学事課長 数字の上。

山本学事課主査 学級閉鎖の学校での欠席者ということでは把握をしているのですが、それ以外の数に関してはすべては把握していないのです。

石川教育長 罹患をして症状がはっきり出るものと出ないものがあるでしょう。出ないのは不顕性感染と言うのですけれども、その症状があらわれない不顕性感染というのがありますから、はっきりやはり精密な検査をしないことには出てこないのわからないのですね。

小田原委員長 これだけピークが過ぎているということは、八王子としては落ちついているというふうには見ていいと。ただし楽観はしないで引き続き注意をしていくと。

野村学事課長 今度は季節型が入ってくる可能性はありますので。

小田原委員長 ありますか。では、おさおさ怠りなくということですね。

はい、どうぞ。

水崎委員 それに関連してなのですけれども、予防注射、ワクチン接種というのですか、あれは今どういう状況になっているかと、今後、小学校、中学校どうなっているか、ちょっと正確なところを教えてください。

山本学事課主査 今現在、予防接種に関しましては、基礎疾患のある児童・生徒に関しましては対象となっております。それとあとは小学校低学年、3年生までの生徒が対象となっております。今週の多分19日土曜日ぐらいから小学校高学年が対象ということになります。中学生に関しましては、今のところ年明けという予定で保健所のほうが示しております。

小田原委員長 今の話は集団接種をしたほうがいいということじゃなくて。

水崎委員 今後、拡大するかどうかというのは、予防注射をしていればかなり抑えられるかなと思いますので。もちろん接種したからかからないというわけではないのですけれども。かなり症状も軽く済むようなので、いいかなと思ったので。今、輸入ワクチンだ、国

産のワクチンだといろいろにぎわしていると思いますので、八王子の今の状況を知りたい
なと思ったもので聞きました。

野村学事課長 追加をすれば、順番はそういう状況になっていますけれども。中学生に関
してはしっかりと問診票をつけた中では、同伴の親はいらないということにもなっていま
すので、多くの方が希望すれば受けられるような環境は整っていると思うのですけれど、
どれだけワクチンが医療機関に来るのかというのがあるので、その辺のところを見ながら
調整をするところだと思います。

小田原委員長 そのほか、よろしいですか。

それでは、学事課からの報告は以上ということで、続いてスポーツ振興課から御報告願
います。

遠藤スポーツ振興課長 申しわけございません、資料の訂正をお願いいたします。60回
大会の表の中でございますが、一部一般男子のチーム数223を221に、参加人数を8
92から884へ訂正をお願いいたします。それから、4部中学男子でございまして、チ
ーム数を19から18へ、参加人数を95から90へ。7部の中学女子でございまして、
16から15、参加人数を80から75。計でございましてけれども、チーム数467を4
63、参加人数を1,903から1,885。それから、一番下の第21回女子全国高等
学校駅伝、ここの成田高校を削除していただきたいと思います。お手数かけて申しわけご
ざいませんでした。

それでは、御報告いたします。

今大会は平成22年2月7日、日曜日、10時、八王子駅前をスタートいたしまして、
南多摩高校の脇をフィニッシュとする前回と同様のコースでございます。

申し込み状況ですが、開催が3週間ほど早くなりましたので、その影響が心配されまし
たが、前大会とほぼ同じ463チームの申し込みがありました。

今大会は60回の節目の大会ということで、特別イベントとしまして写真展を11月2
7日から来年の2月7日まで、そごう八王子店さんをスタートいたしまして、イトーヨー
カ堂八王子店、市役所ロビー、道の駅滝山、スーパーアルプス狭間店、JR八王子駅のコ
ンコースで実施いたします。写真は第1回の大会のものなど10枚を展示いたします。ま
た同時に古い大会の映像を、30分にまとめた映像を流します。

11月14日土曜日には選手の走力向上講習会を実施いたしまして、60名の参加がご
ざいました。

また、「We Love Hachioji」と駅伝のロゴを入れた応援用のハンカチを約5,000枚配りまして、沿道で振ってもらうことなどを考えております。

以上でございます。

小田原委員長 スポーツ振興課からの報告は以上ですが、何か御質疑、御意見ございませんか。はい、どうぞ。

水崎委員 質問ではないのですが、今、御説明があったように第1回の駅伝の写真を展示したりということですけど。まだ私、見には言っていないのですけれども、昨日ホームページで見てみたら、こういうのが見られるのだなと思ったらすごくいいなと思ったのです。今まで、皆さんに見てもらっていたのかどうか私はよくわからないのですけれども、そういう写真を見ることでまたこの60回という駅伝の重みが認識できるのかなと思うと、とてもいい試みをしてくださるなと思いました。

小田原委員長 そのほかいかがですか。

これ、参加チームのふえたところと減ったところがあるのですが、これは特徴は何かあるのですか。

遠藤スポーツ振興課長 大学の男子あるいは高校、中学といったところがあるのですが、大学とか高校が試験に当たっているところもあるということで、若干前回よりは少なくなっております。前大会までは2月の第4週の日曜日だったのですが、東京マラソンとぶつかったこともありまして、3週間早くなりました。60回大会は2月第1週の日曜日ということで変更がありましたものですから、その影響が少し出たのかなということでございます。

小田原委員長 2月の頭だと、そうか。これはそうすると今後こういう傾向でいくというふうになるわけですか。

遠藤スポーツ振興課長 前々回の58回大会も78チームということなので、そこから見ればそんなに大きくはとは思っていますが、今後またこういう大会の中で、少しでもふやすようにPRはしていきたいと思います。

小田原委員長 今の事情で言うと、年度末試験ですよ、にひっかかるとすると、これよりふやすというのは難しいという、大学、高校についてはね。高校は2月の頭だと何とかなるのかもしれませんが。94から71に減ったというのは大きい減り方ですよ。だからこれはそういうことであれば、期日をまた戻すわけにはいかないとするれば、もう1週間繰り上げるか、というようなことも考えていいのかとか、またそれは検討していただ

くということになるのですよね。

遠藤スポーツ振興課長 日程については、これ以上早くしますと、箱根駅伝のチームとかいろいろなところにまた影響が出てきますので、そういうものも勘案して2月の第1週に決めた経緯がございます。そういう中で一応2月の第1週というふうに考えております。

小田原委員長 ということですが。

では、特にないようであれば、スポーツ振興課からの御報告は以上ということによろしいですか。

天候のよいことを祈っております。

そのほか報告ございますか。

石垣学校教育部長 1件、私のほうから、学事課のほうから報告がございますのでよろしくお願いいたします。

小田原委員長 では、学事課よろしく申し上げます。

野村学事課長 口頭で御報告いたします。来年の1月14日から18日まで、毎年例年になりますけれども、市立小中学校の合同作品展のおおるり展を開催することが決定して、昨日ポスターができ上がってきました。また、御案内についてはメールで差し上げたりするところですが、ぜひ、子どもたち全部の小中学校が作品を展示しますので、ごらんいただきたいと思います。

昨年の定例会のほうで御指摘いただいた、素材のつくり方などを素人が見たときにわかりやすく伝えることが必要なのではないか、そのような点はまた今年も細かい説明書きを貼るようにして伝えていきたいというふうに考えております。

それと、中学校が美術のみの展示はどうかというのがあるのですが、場所がいかに狭いので、こちらのほうから積極的に出してと言にくいところもあるのですが、その辺はおいおいまた場所も考えながら御提案していこうかなというふうに考えています。

それと、夢美術館の利用も検討できないかということでございましたが、夢美術館も2年先にもう決まっているところもありますし、それからやはり内容についても、夢美術館はもうちょっと芸術性が高いものの展示がございますので、その辺のところももう少し時間がたった中でお話し合いをしていければと思っております。

ぜひ、来ていただければと思っております。以上です。

小田原委員長 ということですが。前に指摘された点では、その説明を入れるというところの改善があると。会場がいかに狭いので。

野村学事課長　今でさえちょっともう少し広げてほしいというふうなことが学校側より、一人でも多くの子どもを出したいのもう少し広げられないかというようなお話もあるので。ただ、交通の利便性の高いところも御希望ですよね、保護者にとっては。その辺のところの兼ね合いで、どうしてもそごうが一番というところがありますので、難しいところだと思っていますけれども。

小田原委員長　そうですね。技術とか家庭科の部分もあったのではない。

野村学事課長　小学校だけなのです。中学校は少しキットを使ったものが多いというのも委員会の中では意見がありました。

それからあと、定例会の中では、中学の技術科でコンピュータを使ったものがあるのではないかというふうな御指摘もあったのですが、積極的にこちらのほうからの働きかけというのが、場所の都合があるのでなかなか言いづらいところがありました。御意見が出たということは報告はさせていただきました。

小田原委員長　キットは無理することはないだろうとは思いますが。どうですか。

水崎委員　スペースは去年よりは幾らか広がったとかということないですか。ちょっと私どこかで聞いたような気がしたのですけれども。

野村学事課長　少し広がったのですけれども。この11月7日に行った科学コンクール、中学校のPTA連合会のほうで中心に行っていた中学校の科学コンクールの作品もちょっと展示をしたいというふうに思っていますので、大幅に広がってはいないのです。今までもぎちぎちに展示していますから、余り感じないくらいの広さですけれども。

小田原委員長　ほかのところは非常に気の毒な展示の仕方もありますね。もうしようがないと思いますけれども。

野村学事課長　でも、やはり小から中に上がる中で一貫して見られるというのは、とても見ごたえがありますよね。毎年保護者の方からの御意見としては、それは必ずあります。

小田原委員長　ということで、もう一回、いつからいつまでというのは言っていただければと思います。

野村学事課長　来年の1月14日から18日まででございます。

小田原委員長　ということですので、ぜひ宣伝して皆さん多く。一人でも多くの子ども作品をというふうに考えてやっていただいていますから、一人でも多くの方に見ていただきたいということですね。

野村学事課長　よろしく願いいたします。

小田原委員長 予定された案件は以上ですが、委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 では、特にないようでございますので、以上で本定例会の議事日程はすべて終了いたしました。これをもちまして本定例会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

【午後 2 時 4 8 分閉会】